

実践躬行

JISSEN KYU-KOU

じっせんきゅうこう【実践躬行】「理論や信条をそのとおりに自分自身で実際に行うこと。」(大辞林より)

突撃!
日本を元気にする
公認会計士へ

Engage in the Public Interest
社会に貢献する公認会計士

No.005 2017年12月1日発行

発行元: 日本公認会計士協会
〒102-8264 東京都千代田区九段南4-4-1
http://www.jicpa.or.jp
編集: 日本公認会計士準会委員会 実践躬行チーム

Profile
No.1

艱難汝と玉にす。
カーネギーの「道は開ける」
と心に頑張って下さい。
松本浩一

公認会計士を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

中学生の頃両親が病気になり、実家の農業を継ぐために定時制の農業高校へ通ってました。しかし、もっと勉強をしたいという気持ちが強く、20歳ぐらいから大学受験の勉強を開始し24歳で大学に入学しました。卒業時の年齢は28歳となり、一般企業等では就職しても厳しいという思いと、向学心・興味・生活の手段という意識が公認会計士という職業と合致し、公認会計士を目指すことにしました。

若手・受験生時代に苦労したことはなんですか。

大学に入学を果たし公認会計士を目指し始めたものの、実家の農業の手伝いも行わなければならない、大学のゼミのスケジュールを調整して、農繁期には実家へ帰郷し農業に従事、農閑期には大学という半学半農の生活を行っていました。

もう皆さんには関係のないことですが、当時は電卓もなく試験に合格するためにはそろばんができるようになる必要がありました。ただそろばんが苦手だったので、大学生になってから小学生たちに交じてそろばん塾に通ったことも苦労した思い出の一つです。笑

合格した後は、アーサー・ヤングに入所し主に米国基準の監査等に携わってました。当時は日本基準と米国基準とのGAAP差は大きく、業務のために米国基準を覚える必要がある一方、3次試験のために日本基準を学ぶ、というのは非常に苦労した覚えがあります。もちろん、この経験が独立した時に、別の形で活かせることになったので今ではよかったと思います。



事務所と愛車のベンツ

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください。

私の公認会計士人生のターニングポイントは3回ありました。

1度目のターニングポイントは、金沢へ戻り個人事務所を開業した時です。もともと自分の事務所を開業するつもりはなく、また、当時外資系監査法人にいたことから米国でのMBAの取得を考えておりました。留学の準備も整いつつあったその矢先に父親が亡くなり、実家のある金沢に戻らざるを得ない状況となりました。金沢に戻った後は、自ら会計事務所を開業し、ゼロからのスタートとなりました。

2度目のターニングポイントは、トーマツが金沢連絡事務所を開業する際にその事務所の代表社員に就任した時です。私自身IPOに非常に興味を持っており、当時IPOの強かった監査法人といえば中央監査法人かトーマツであったことから、トーマツのメンバーとなれたことは願ったり叶ったりでした。トーマツ時代は個人事務所との兼業をし、トーマツでは大企業の経営陣と接する一方、個人事務所では地元企業の経営者と接するなど様々な視点を養うことが出来たと感じております。

3度目のターニングポイントは、トーマツを退社し自分の事務所に専念した時です。事務所を開業した時から地方活性というものに意識を置いてきました。そしてこの10月にかねてより念願であったコンサル会社を立ち上げました。

ゼロからの開業は?

金沢での開業は何もない状態からのスタートとなり、仕事を取りに行くことから仕事が始まりました。

消費税に関するセミナーを開いたところ好評であり、これを機にいろいろなセミナーの仕事を引き受けるようになり、金沢でのネットワークが広がっていきました。このネットワークを通じて仕事を頂くことが増えていきました。この時に様々なネットワークを活用することの大切さを感じました。

また、何か革新的なことをしたいと考えていた最中、地元の新聞社から取材を受けました。当時の金沢には外資系監査法人出身の公認会計士が少なく自分の知名度を上

松本浩一

まつき こういち

公認会計士 税理士
昭和50年 公認会計士試験合格
昭和51年 一橋大学商学部卒業
アーサー・ヤング&カンパニー(現EY)入所
昭和56年 公認会計士登録
昭和59年 松本公認会計士・税理士事務所開業(～現在に至る)
平成3年 監査法人トーマツ代表社員就任
平成25年 日本公認会計士協会北陸会会長就任(現相談役)
平成29年 第38回研究大会実行委員長

げるためにも絶好の機会となるとともに、これまでの自身の経験が役に立ったと思った瞬間です。

先生が今目指していることを教えてください。

2015年に新幹線が金沢まで開通し、観光客は増えてきました。しかし、新幹線開通によって必ずしも良くなったとは実感していません。私の夢は金沢にある多くの企業が大企業となるべく成長すること、あるいは大企業がこぞで金沢に集まるような「しごと」面での地方創生に貢献することです。

そのために、先ほども少しお話しましたが、税務・会計からの面だけではなく総合的にサポートできるようなコンサルティング会社を念願叶ってこの度立ち上げました。

コンサルティング業務といっても様々な分野があります。特に会計士の強みは財務コンサルティングかと思えます。しかし、財務コンサルだけでも企業は成長できないと思い、私のコンサルティング会社では戦略や人事等トータル的なコンサルティングを目指しております。広い視野にて物事を見ることで、様々な問題点を明らかにすることができ、問題点に絞ってコンサルティングを提供できるというメリットがあります。

コンサルティングを通じて、企業を成長させ金沢に大企業を誕生させたいと考えております。

先生が大切にしていること、そしてこれからの会計士に大切にしてほしいことを教えてください。

私が大切にしていることは主に2つです。

まず、ネットワーク。金沢に帰ってきた当初、仕事を得るために様々なネットワークと関わりを持ちました。また、現在でも協会や経済団体との関わりは常に持つようにしております。私のコンサルの夢もネットワークなしでは成し得ないと思います。

もう1点は、広い視野です。常に経営者が

どのような視点を持っているのか考えることで、経営者とのコミュニケーションもうまくいきます。

これからの公認会計士に大切にしてほしいことも同じことです。人とのつながりを大切に、広い視野を持って日々を過ごして欲しいと思います。

地方に帰ってきてよかったことを教えてください。

私が金沢に帰ってきてよかったことは、もともと農業をやっていたこともあり趣味で様々な果樹、バラを始め季節の草花、ハーブ、野菜作りのガーデニングができること。加えて、芝生で愛犬のシェパード、ゴールデンリトリバーと遊んだり、庭園のデッキでコーヒータイトムをとるなど、自然と触れ合える生活ができることです。東京ではできないような経験をしています。やはり自然とかかわることは人間にとって必要なことで、心が癒やされる至高の時間だと思っています。また、自然を囲んで人と触れ合う楽しい団楽の時間も増えたことがその利点でしょうか。

最後に、若手・受験生へのメッセージをお願いします!

「艱難汝と玉にす」という言葉を聞いたことがありますでしょうか。昔の言葉ですが、苦境になった時でも何とか耐えて頑張り続ければ、いつかは道が開ける。という意味です。みなさん、人生を歩んでいく中で絶対何らかの壁にぶつかることがあります。それでも耐え忍んで努力を重ねれば、必ず報われる時が来ると思います。私もこれまで様々な困難がありましたが、困難にぶつかった時にはいつもこの言葉を思いだし乗り越えてきました。受験勉強や若手時代にも辛く苦しいことは多くあるかと思いますが、今はつらいかもしれませんが、それを乗り越えた先には必ず光が見えてくるのであきらめずに頑張り続けてください!